

楠ヶ丘会 ウィメンズくらぶ

No. 29

2022.03.25

発行 楠ヶ丘会ウィメンズくらぶ世話人一同

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1番 神戸市外国語大学楠ヶ丘会館内

Tel・FAX 078-794-8108 <https://www.kusugaoka.jp/>

<https://www.facebook.com/kusugaokawomen>

趣味はマラソン

趣味と呼ぶには気恥ずかしいのだが、40歳を過ぎてからマラソンを始めた。その前から家の近所をジョギングすることはあったが、複数の知人がマラソン大会に出たと聞いて、自分もまず試しに10キロのレースに出てみた。するとスタート時のファンファーレや沿道の声援などがお祭りのようでわくわくした。ゴールした時には、フルマラソンも走ってみたいと、つい思ってしまった。翌年、大阪マラソンの高倍率のランナー出場抽選に当選して初マラソン。ヘトヘトになったが、3万人のランナーが参加する大規模イベントの賑やかな非日常空間の中で走るのは心地よかった。そして、次はもっと速く走れるかもしれないと、つい思ってしまった。

その後も幸運なことに毎年どこかのマラソン大会のランナー出場抽選に当選して、これまでにフルマラソンを8回走った。はじめのうちはレースで走るたびにタイムが縮まって良い気になっていたが、そのうちに記録が足踏みをするようになった。それでも次のマラソン大会では今度こそと思い、周囲に少々呆れられながらも応援してもらって走ることを続けている。

若い頃は自分がマラソンをするとは想像もしなかったが、始めてみると、趣味で走るのであればマラソンは若くない人にも向いているスポーツだと感じている。周りの速い人のことは気にせず、自分に合った目標を目指せばいいからだ。そしてマラソン大会で目標タイムを達成できたときは、日常生活にはない充実感が得られる。また普段の練習の中でも、いつもより長い距離を完走したとか、以前より楽に走れたなどの小さい達成感がある。

とはいえ、長い距離を走り続けることは楽ではないので、もう駄目だ、体が重い、歩きたい、今日は走りたくないなどと考えていることは多いし、そういうときは若くないことを言い訳にしがちである。実際、無理をすべきではないので注意が必要なのだが、もう少し頑張ってみよう、諦めたときは後悔したのではないかと自分を励ましている。マラソン大会の後半では、ゴールした後にこっそりと甘いケーキを食べることを空想したり、主催者のカメラに向かってあえて笑顔で手を振ることで少しでも力を出そうとしている。

マラソン大会や練習会などで出会う様々な年齢や職業のランナーに刺激を受けることも多い。私より年上で澁刺と走っている女性も少なくない。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大で、2020年3月以降は出場予定のマラソン大会が中止になることが続いている。世界が混乱し多くの人が辛い思いをしている現在の状況が早く収束することを願い、その上で個人的な願望として次のマラソン大会が無事に開催されることを願っている。

今の目標は自分のベストタイムを更新すること。その後は体調に合わせて目標を設定しながら各地の特色あるマラソン大会を走ってみたい。海外のレースにも興味がある。そうやってこれからも笑顔で走りたいと思っている。

(K・M)

ウィメンズくらぶ 第25回講演会・交流会報告

「社会人のいま再認識する外大の良さ ～模擬国連世界大会の経験が私たちにもたらしたもの～」

講師：谷 幸穂 さん (学66K)
高本 真弥 さん (学66K)



コロナ禍が少し収束の気配を見せ始めた2021年11月13日（土）、ウィメンズくらぶ第25回講演会・交流会を、神戸市外国語大学第2学舎502教室にて開催しました。

今回の講師は、2016年に日本で初めて神戸市外大をホスト校として開催された模擬国連世界大会（NMUN JAPAN 2016）において、学生委員会のメンバーとして活動した、谷幸穂さん、高本真弥さんのお二人です。2020年に再び神戸市外大をホスト校に開催される予定であった模擬国連がコロナの影響で2022年に延期となったこともあり、会場には2016年、2020年、2022年の学生メンバーの方々、教職員の方々が集まり、さながら「模擬国連同窓会」とも思える和やかな雰囲気となりました。

模擬国連とは、学生が一国の外交官になりきり、実際の国連会議を模擬する活動です。会議準備として担当国や議題についてリサーチを行い政策を立案し、会議では自国の政策をもとにそれぞれの国益を考慮しながら国としての問題解決に貢献するために交渉や議論を行います。リサーチスキル、論理的思考力、交渉力、コミュニケーションスキルなどが鍛えられます。

2016年に神戸市外大創立70周年記念として開催されたNMUN JAPAN 2016では、各国から350名以上の大学生が神戸に集い、学生委員会を中心に、外大生300名以上のボランティア、教職員が一致団結して大会運営を支えました。

一年生の時に教員から声を掛けられたことがきっかけで模擬国連の世界に入った谷さん。ほどなくして高本さんをはじめとする仲間たちと出会い、模擬国連成功というゴールに向けて走り出しました。海外の大会に参加するなどして経験を積み、神戸大会では事務総長として学生委員会をまとめる立場となりました。一方、文化視察担当リーダーとして海外の学生を広島に引率した高本さんは、祖父が被ばく者であるという背景を持ち、模擬国連のプログラムに広島観光案内があると知った時に、自身の大学生活の集大成として取り組んでみたいと思ったそうです。「神戸の学生が原爆と平和について海外の学生に語ること」の難しさに直面しながらも、事前に広島に何度も足を運んでさまざまな人に話を聞くなどして準備を進め、当日は宮島から原爆ドーム、資料館と多くの場所を回り、行事を成功させました。

模擬国連は唯一無二の成功体験であったと谷さんと高本さんは口を揃えます。共通の目標に対し、圧倒的な当事者意識を持つ理想のチームメンバー。学生委員会の主体性を尊重し、時に助言を下された先生方。また、学生委員会が自分たちのやるべきことに専念できるようにあらゆる面において尽力してくれた大学事務局。特に当時は夢中で気づかなかった「周りの大人の方々のサポート」が、卒業した今になって改めてありがたく感じられるといいます。学生、先生方、職員の距離が近く、ファミリー感があることが外大の良さであり、そのような恵まれた環境下で学生の立場で主体的に行動するという経験ができたことが大きな財産となっているとのこと。卒業してからは、職場や社会で出会う人々との問題意識の高さの違いに悩むこともあるそうですが、政治や社会に対する高い理想を常に自分の中に持ち、それを人に伝えていくという姿勢はやはり模擬国連で培われたものであり、「模擬国連を成功させた」という事実が今でも心のよりどころであり、自尊心のもととなっているそうです。

プライベートでも親友であるお二人。お互いの記憶を確かめるように、時に壇上で会話を交わしながらの講演となりました。受験生や現役生に「小さなものでも良いから外大で成功体験を得てほしい。それがあれば社会に出ても強く生きていけるから」と語るお二人の自信に満ちた様子が眩しくもありました。質疑応答コーナーでは、女子トイレがなかった60年前の外大に入学した卒業生の話に、若い参加者から「当時の女子学生の話を知りたい」との感想がありました。今まさに輝きを放つ若い世代、そして経験を重ねて現在進行形で輝き続ける大先輩方の理想的な交流の形が出来たのではと感じました。

今回は第25回の節目に当たるため、ささやかながら記念になる催しをと、講演会終了後に世話人の案内で現在のキャンパスをめぐる「ミニキャンパスツアー」を行いました。学生が思い思いに勉強や雑談に勤しむスチューデントコモンズ、AV教室、学生食堂に図書館と、特に旧六甲学舎出身の方には新鮮な驚きのあるツアーになったのではと思います。これからも各方面で輝く女性卒業生の方をお招きし、意義深い交流会が出来ればと考えています。谷さん、高本さん、ご出席の皆様、本当にありがとうございました。

檜原令子 (学46E)



♪♪♪♪ アンケートの結果です ♪♪♪♪

(22人の方から回答をいただきました)

Q. 開催をどのようにして知りましたか。(複数回答あり)

案内ハガキや同窓会誌が13人、友人・知人からが4人、インターネットが6人、ウィメンズくらぶニュースが4人

Q. 開催日時(時期、曜日、時間等)は?

良い19人、普通3人

Q. 会場(アクセス、設備等)は?

良い20人、普通2人

Q. 講演会のご感想

- 若い講師さんたちの体験談は新鮮でした。若者を育てる気概に満ちた神戸市外大の校風は素晴らしいと思いました。
- 今日貴重なお話ありがとうございました。質問にもお答えいただきうれしかったです!! 今日の講演会を聞いて、自分もこの学校でお二人がされたような成功体験をしたいです!! 受験勉強がんばります!
- 生徒の立場から「日本大会2016年度」が言葉で表せないほどの成功だったという印象だったが、その裏側や表に出ていなかった部分を講演で知れて興味深かったです。
- 模擬国連の成功体験を生かし、現在の職場で活躍されている様子、たいへんよかったです。今後ご活躍をお祈りします。
- 昨年度卒業した身として、同じ模擬国連を経験した大先輩の話を伺えてとても満足です。卒業生という枠の中で、より自分の年と近い卒業生から貴重な話を伺えて鼓舞していただきました。

Q. 次回以降の講演会・交流会で取り上げてほしいテーマ、講師

今回のように若い卒業生、地球環境について、ジェンダー平等について、50～60年前に卒業された方のお話、異文化間コミュニケーションについて、等のご提案をいただきました。

Q. ウィメンズくらぶの講演会・交流会および活動全体についてのご要望、ご提案

現役生や若い卒業生が活動できるとよい、女性の社会的地位を向上させるために共に考えられる場であってほしい、等のご意見をいただきました。



ウィメンズくらぶ第26回講演会・交流会

日 時：2022年11月3日（木・祝）
午後1時30分～

場 所：三木記念会館

参加費：無料

講 師：水野晶子さん（学30EC）



講師略歴：1958 年生まれ。神戸市外国語大学英米学科卒業。毎日放送アナウンサーとして定年退職後フリーアナウンサー・朗読家として活動。MBS ラジオ「しあわせの五七五」に出演中。朗読教室を毎日文化センター（梅田）と門戸寄席 J:SPACE（西宮）で開講。アマチュア落語家（愉快い亭びわこ）としても高座を務める。キャンピングカーで旅しながら YouTube「朗読人」を配信。

演題：「わきまえない女」

水野さんから：わきまえることが不得手な私がメディアの片隅で経験し、考えたことをお話しします。「わきまえない女」の代表?与謝野晶子の一篇の詩もお聴きください。お会いできる日を楽しみにしています。

—ウィメンズくらぶ(女性同窓生)の皆さま—

今年も季節が巡ってきました。繰り返される自然の営みに心が癒されます。当たり前のように続く日常は次の年も、その次も繰り返されるものと疑いもなく暮らす日々でした。それがこのコロナ禍で、一変しました。皆さまいかがお過ごしでしょうか？ 様々ご苦労が続いていると思います。どうぞご自愛くださいますように。私たちも又、毎年この時期に講演会のご案内と共に「ウィメンズくらぶニュース」をお届けできるかと不安がいっぱいです。でも、今年もお届けできたことをうれしく思っています。又、ご意見などありましたらお寄せください。お互いに何とかこのコロナ禍を乗り越え、お会いできることを楽しみにしています。

（世話人代表 原 和美）

※関東ウィメンズくらぶの交流会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、2022年度の開催を見送ることとなりましたのでお知らせいたします。